

# 水牛通信

VOL.6 NO.1  
毎月1回・10日発行  
定価200円

人はたがやす 水牛はたがやす 稲は音もなく育つ

詩

- 新しい歌 2
- 星をたよりに 2
- 最後のノート 4 2
- だるまさん千字文 4 2
- 戦のはげしかったころ 6
- 秋の雨 12
- アン・バヤン・コ(わが祖国) 12
- うばわれし野に春はくるか 14 14
- 真田隊軍歌 16
- パレスチナの恋人 16
- 今日は会えない 18
- 花のうた 18
- 祖母のうた 20
- フジムラストア 20
- 涙ぬれし豆満江 22 22
- めしは天 24
- ボクハソソケイスル 24
- 都市 26
- 名前よ立って歩け 26
- パレスチナの子どもの神へのてがみ 28
- 水牛楽団のうた 30

新しい歌

あすともなれば一つの歌が  
未来の静かな水面をゆさぶり  
そのさざ波とぬかるみを  
希望でふくらますだろう

光り輝いておちついて  
思想に満ちた一つの歌  
悲しみや苦しみやまぼろしに  
まだよごれていない一つの歌

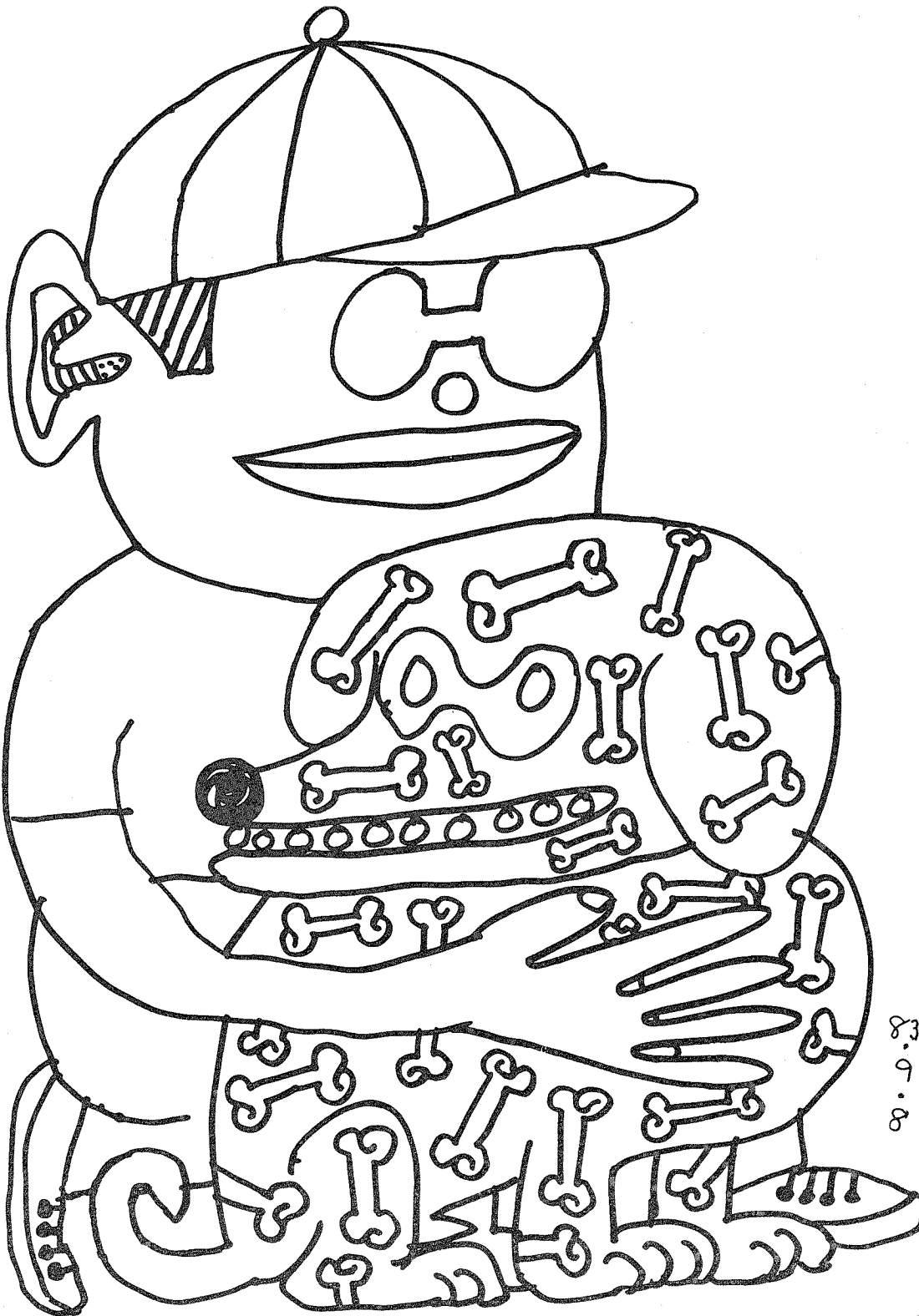
もろもろの物 もろもろの風  
その中心にせまる歌だ  
とこしえの心の喜びに  
最後にはやすらう歌だ

詩 長谷川四郎  
訳 林光  
曲 ロルカ

星をたよりに

星のひかりはるかに  
空にかがやく  
こころのともしび  
みちびきのはたよ  
あらしがくると  
月も雲にかくれ  
希望の星ひとつ  
こころをはげます  
くるしさにまけず  
人民はたちあがる  
月もおち 空くらく  
かがやく星ひとつ  
夜明けまでひかる

詩 曲 ジット・プミサク



最後のノート

曲詩 中尾幸吉  
高橋悠治

アメガフツテル アメガフツテル  
トオオク トオオク ニモ フツテル  
チイサイ チイサイ イノチノウエニモ  
アメハ ヤッパリ フツテル  
イシモ ヌレテル  
ソラモ  
ユビノサキモ ヌレテイル  
ドウシヨウモナク イタシカタナク  
ヌレテユク

イマ  
カナシイトモ オモワナイ  
タダ  
ミヨウナ 深ミ  
エジプトノ ピラミッドノ  
アノ中の石棺ノ  
ワビシサガ

ナントモ ジブンノ モノノヨウダ

あめ あめ あめ あめ

あめふうり

あめふうり

喫茶店

みんな おちてくるんだ

開ウヤツハ 開エバイイ

生キルイガイニ能ノナイ奴ハ

ヤッパリ ノコノコシテイル

モウ ダレニモ 会イタクナイ

イキテル奴ハ

ボクト カンケイナイヨ

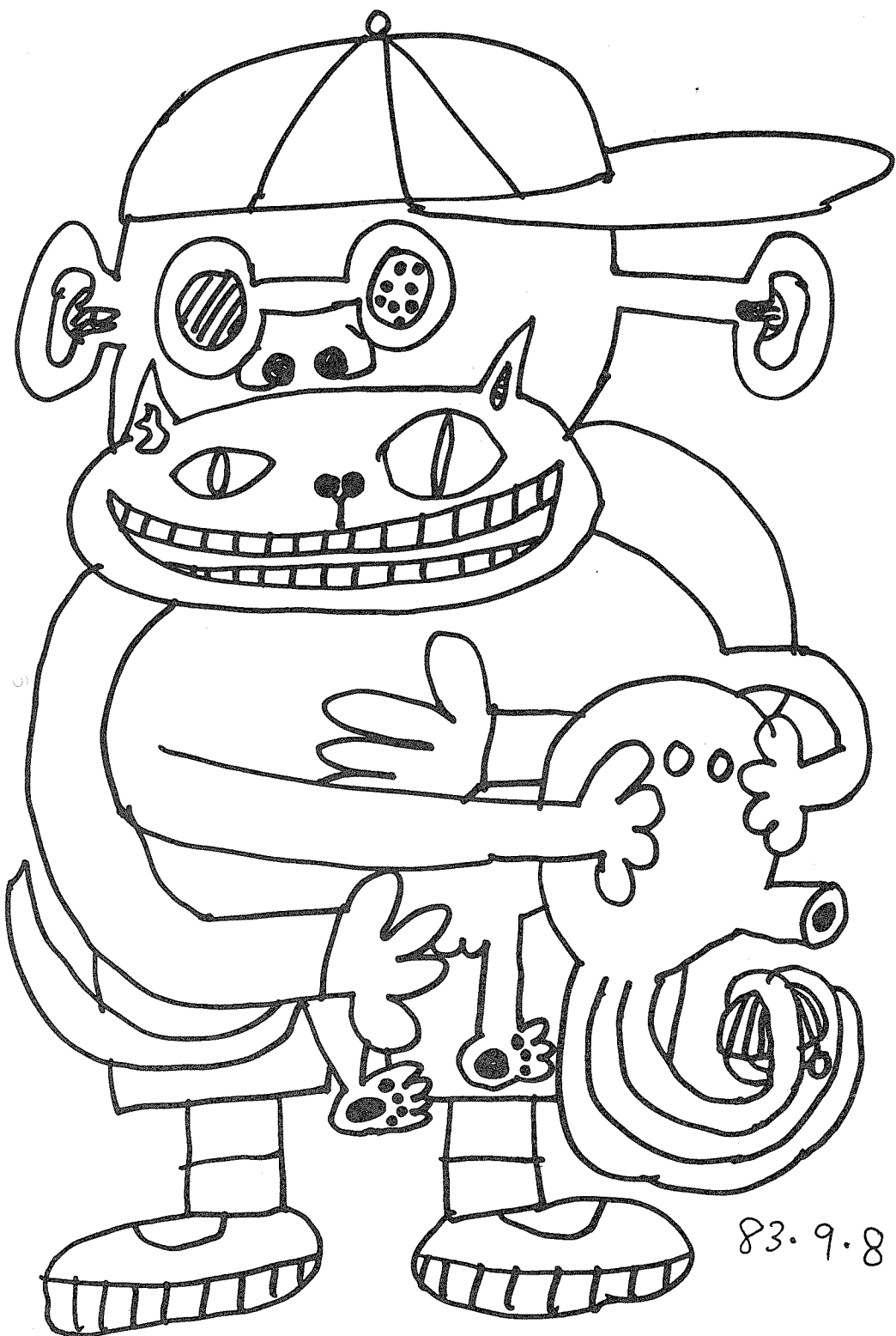
キミハ

ソツチカラ オレヲナガメ

オレハ

コツチガワカラ

キミタチヲ ミテイル



83.9.8

今日 エイガ ミタ

小林旭ノ

ボクトシテハ

ヒトガ 殺サレ シンデイク

シユンカンノ 描写ガ

オモシロカッタ

エイガデハ

ミンナ タノシソウニ

コウフク ソウニ

シンデイク

ダガ ジツサイハ

殺スノモ 死スノモ ムツカシイ

カコクナ イシガ イル

だるまさん千字文

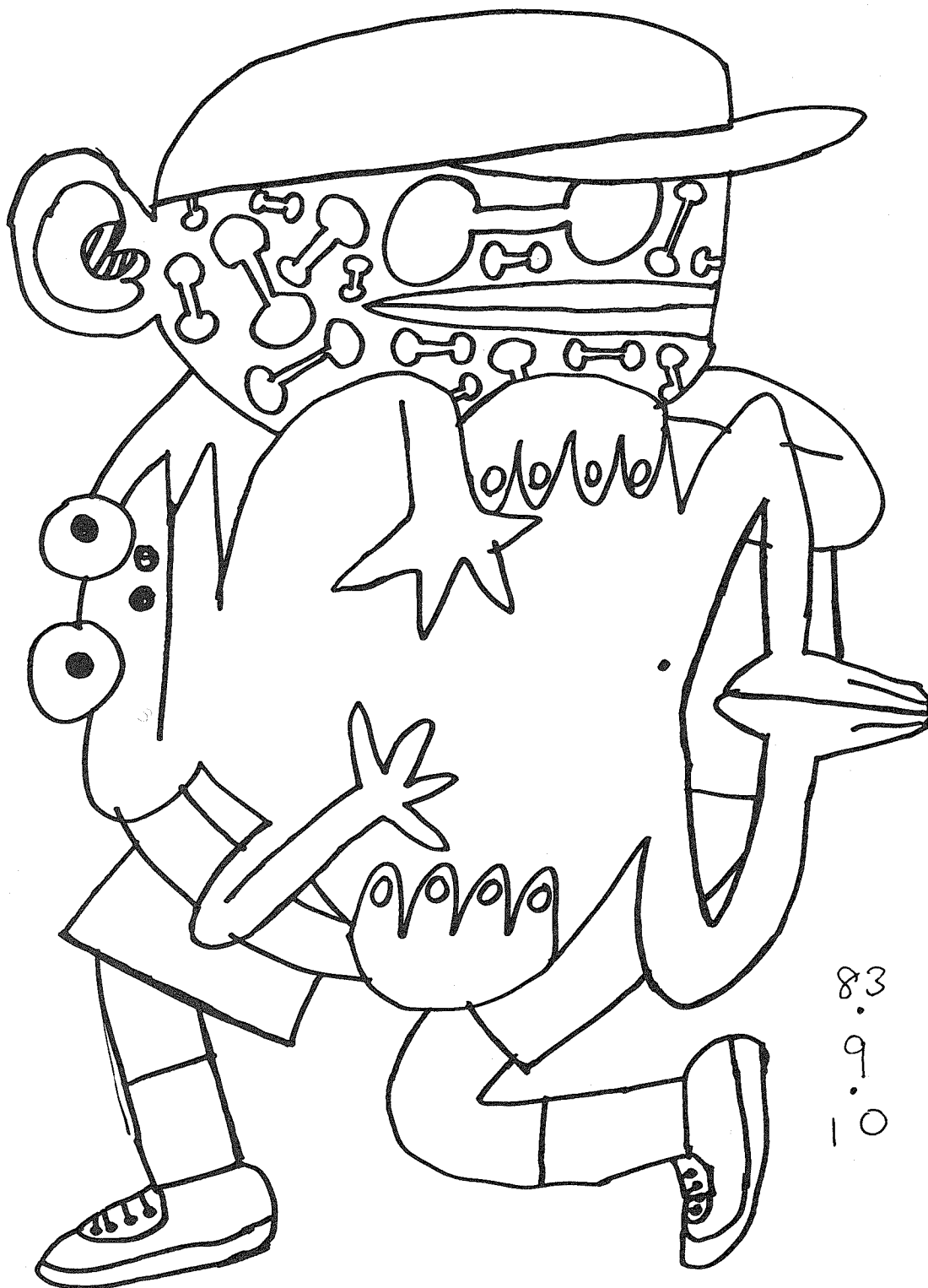
詩 矢川澄子  
曲 高橋悠治

だるまさんおつよい  
だるまさんのかあさん  
だるまさんをだきあげ  
だるまさんにほほずり  
だるまさんあつぷつぶ  
だるまさんほらまけた

だるまさんはすくすく  
だるまさんらしくなる  
だるまさんのゆめにも  
だるまさんがいるかな  
だるまさんを見まもる  
だるまさんのとうさん  
だるまさんはいいねえ  
だるまさんのみらいは  
だるまさんしいだぞ  
だるまさんなにになる

だるまさんあそぼうよ  
だるまさんをよぶこえ  
だるまさんいっという  
だるまさんをおくる

83  
9  
10



83  
9.10

だるまさんのおやたち  
だるまさんのはててゆく  
だるまさんのうちから  
だるまさんのなかまが  
だるまさんをまってる  
だるまさんのせかいへ

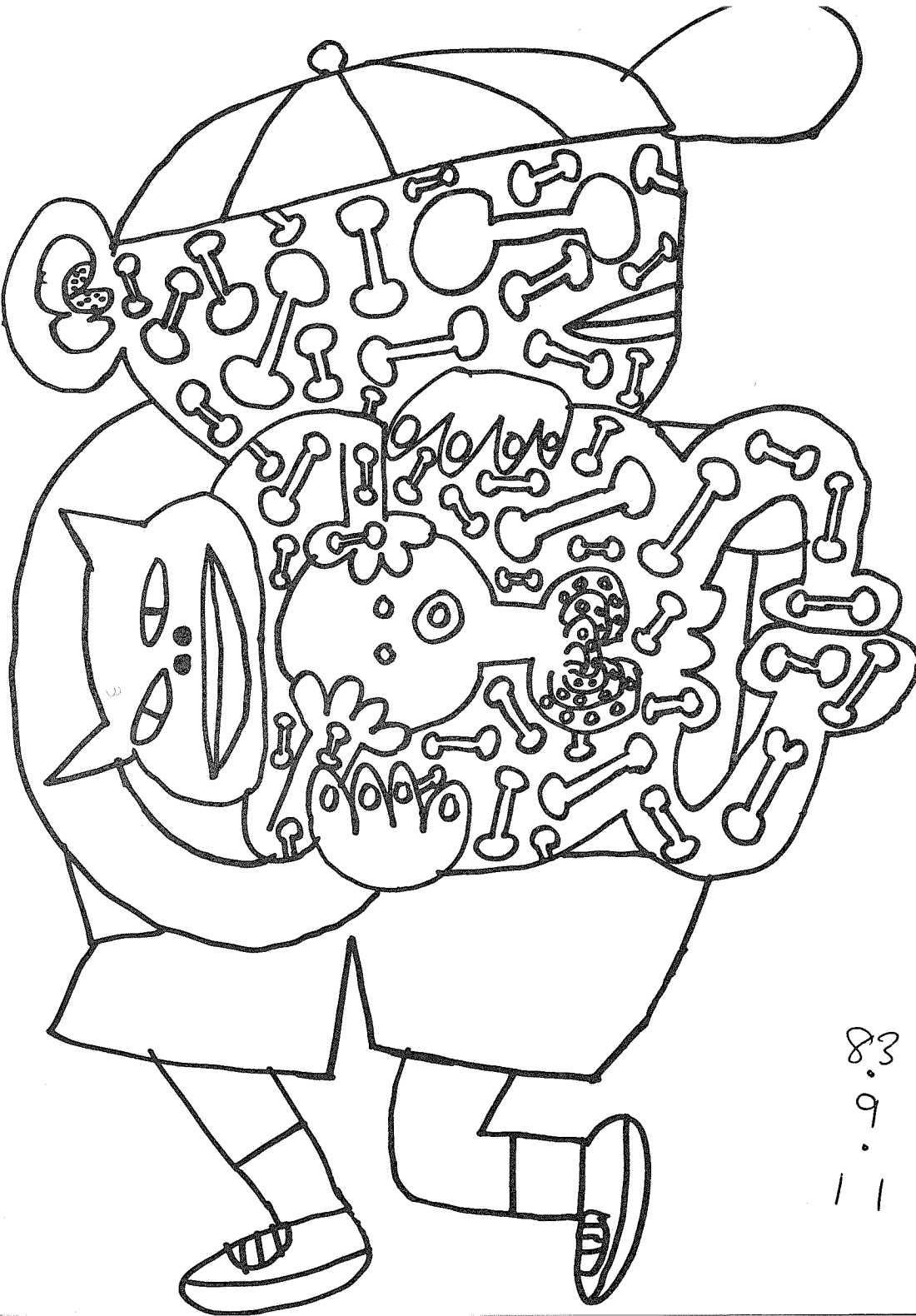
だるまさんがころんだ  
だるまさんだめだなあ  
だるまさんにきびしい  
だるまさんのせんばい  
だるまさんがんばって  
だるまさんをはげます  
だるまさんのともだち  
だるまさんはやめない  
だるまさんはとっしん  
だるまさんぎをつけて

だるまさんがかったよ  
だるまさんよくやった  
だるまさんはやっぱり  
だるまさんだっただ

だるまさんおめでとう  
だるまさんにだつぽう  
だるまさんのゆくては  
だるまさんにあかるく  
だるまさんはかくして  
だるまさんとしてたつ

だるまさんにあこがれ  
だるまさんをあいして  
だるまさんにとついだ  
だるまさんのおくさん  
だるまさんのつくった  
だるまさんのわがやで  
だるまさんによくいた  
だるまさんのこどもが  
だるまさんを見あげる  
だるまさんしあわせか

だるまさんがころんだ  
だるまさんのころに  
だるまさんのしらない  
だるまさんがめざめた



だるまさんのあたまは  
 だるまさんをせめたて  
 だるまさんのからだは  
 だるまさんにあらがう  
 だるまさんのくるしみ  
 だるまさんのたたかい  
 だるまさんしかしらぬ  
 だるまさんのよろこび  
 だるまさんしかしらぬ  
 だるまさんのかなしみ  
 だるまさんのすべてを  
 だるまさんはあじわう  
 だるまさんたらんどし  
 だるまさんならんどし  
 だるまさんなればこそ  
 だるまさんになりきる  
 だるまさんおかしいな  
 だるまさんのくせして  
 だるまさんやりなおせ  
 だるまさんはやったよ

だるまさんをせめるな  
 だるまさんはかつての  
 だるまさんとはちがう  
 だるまさんのさつた  
 だるまさんのげんかい  
 だるまさんのたそがれ  
 だるまさんがころんだ  
 だるまさんそのままで  
 だるまさんのなにかが  
 だるまさんにささやく  
 だるまさんはほほえむ  
 だるまさんおやすみよ  
 だるまさんのもとめた  
 だるまさんのねはんに  
 だるまさんはいまこ  
 だるまさんねころんだ

83  
 9  
 11

戦さのはげしかったころ

詩・曲 アルフォンソ・ケベコル

せめてくるはげしい戦さをさけて  
野をこえ山こえて  
ふもとに身をひそむ  
印象あたたえた空中戦も  
人の命をうばう  
あの爆弾はきらい

戦後はあわずにはなればなれと  
はるかに遠い国  
北の海のみこう  
年月は流れ 便りもなしに  
いかにおすごしかと  
あこがれわが胸に

いつまたあえるか夢みていのる  
願いはかなえられ  
いま楽しくつどう

よろこびあふれる陽ざしのもとに  
感激してともに  
むかしをよみがえす

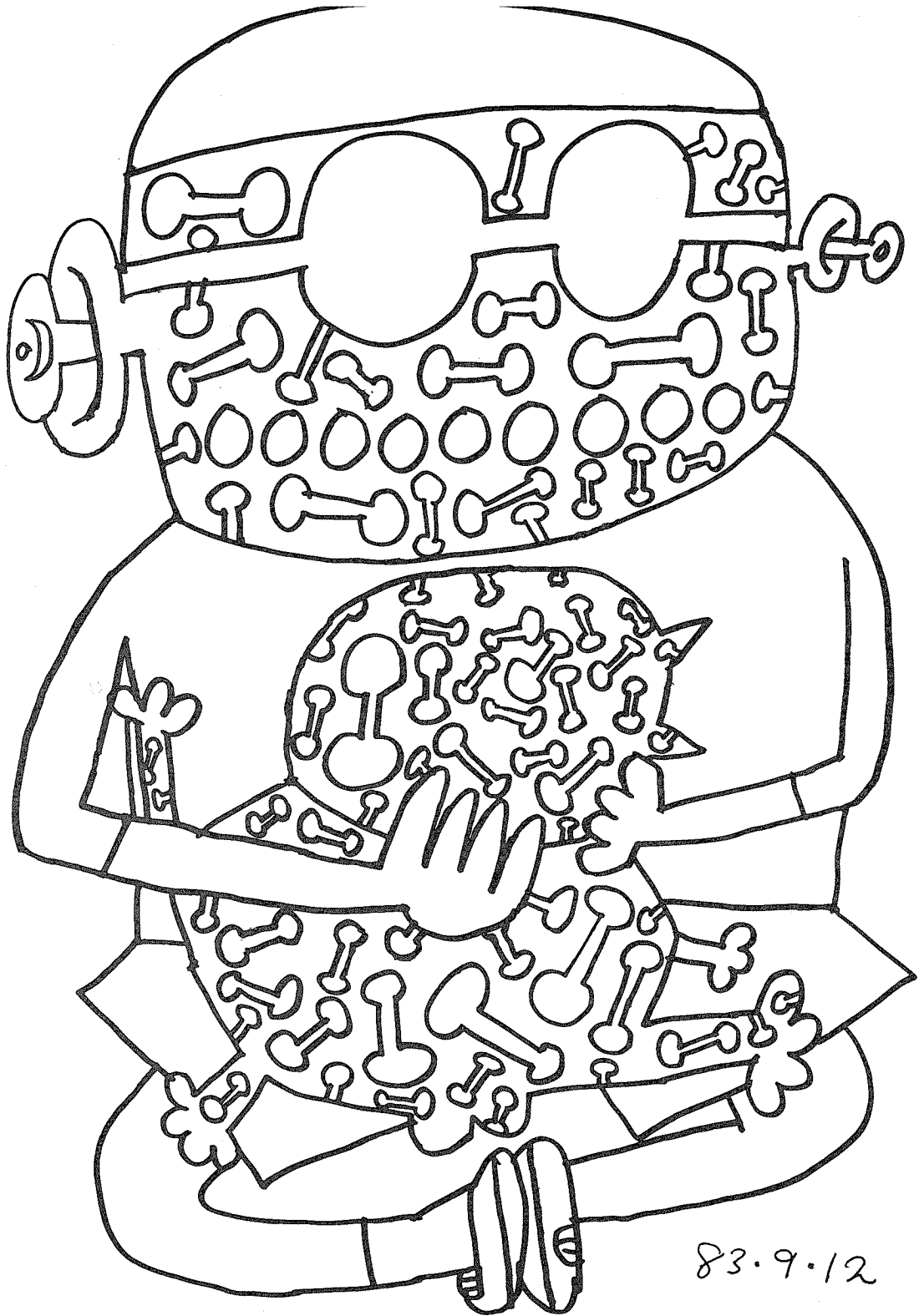
いまこそ肩をならべ手をくんで  
強く団結して  
希望をまもりぬく  
足なみそろえて進歩的に  
協力してゆこうよ  
ゆこうよとこしえに

秋の雨

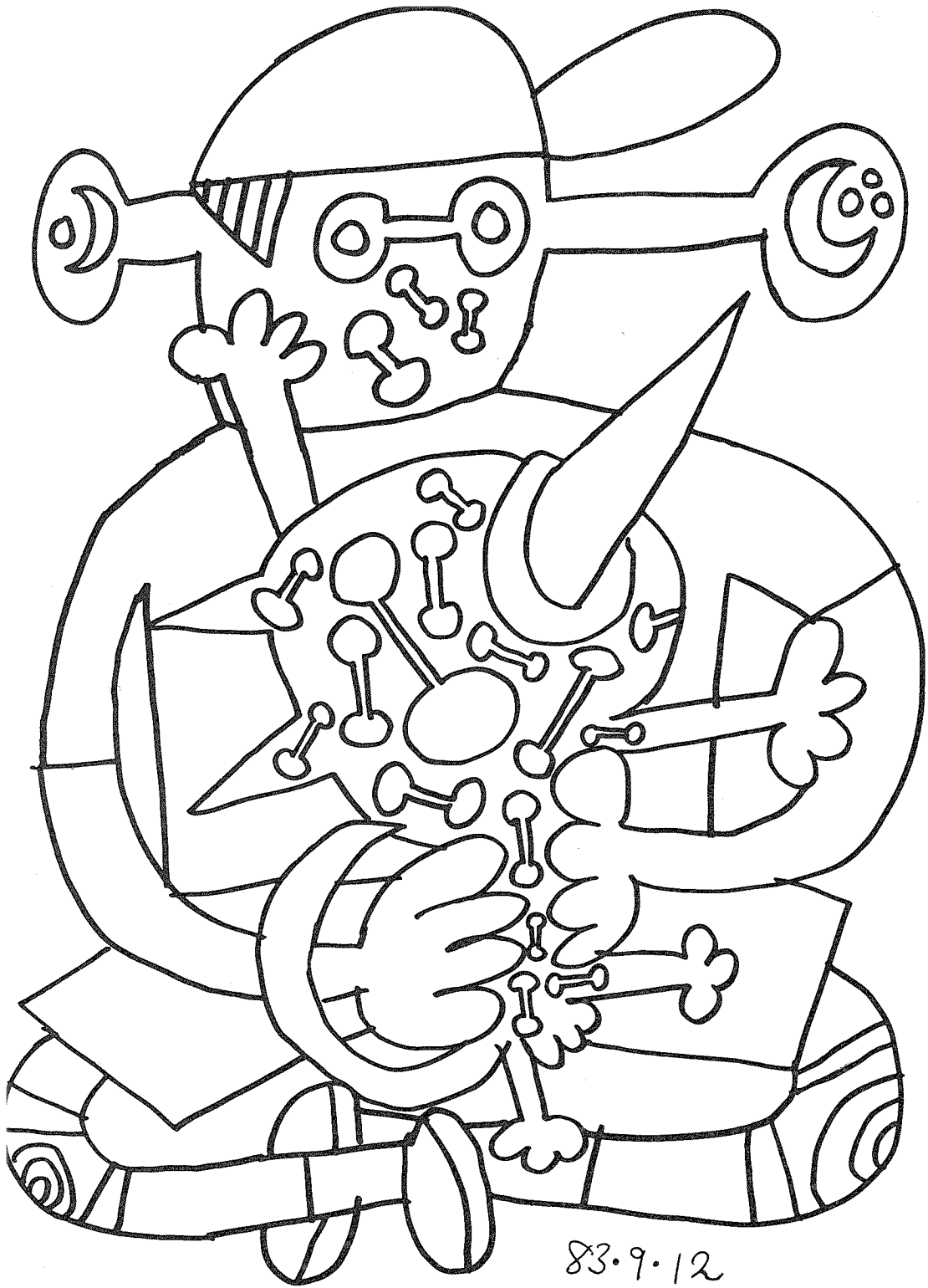
詩・曲 マリアン・マトウシキエヴィチ

秋の雨 かなしい歌  
銃はぬれ鉄かぶとはさびつく  
泥にまみれ 涙にぬれ  
背のうの下をぬらした十八歳

遠い町に夜がくる  
いとしい娘はねむりにつく



83.9.12



83.9.12

今日もまた夜霧みつめ  
君の無事を祈ったことだろう

秋の雨 かぶとならず  
どこか遠くへ君は消える  
いつかまた帰る日に  
あの子をだいてぬかすつけよう

アン・バヤン・コ(わが祖国)

詩 ホセ・コランソン・デ・ヘスス  
コンスタンシオ・デ・ヘスス  
ホセ・リサル

わが祖国フィリピンよ  
こがねと花のくに  
やさしい人の心 美しくかがやく  
だが異国の船がこの平和おかし  
祖国を奴隷の苦しみにつなぐ

カゴの鳥も自由とめてはばたく  
とらわれの祖国も解放をもとめる  
フィリピンよ  
涙と悲しみの国よ

解放の日をまちのぞむ

祖国に生きるこのつらさよ  
外国のため奴隷にされて  
苦しむ国よたまたかいたて  
東に自由の夜明けがくる

うばわれし野に春はくるか

詩 李相和  
曲 金民基

ふりそそぐ陽をあびて  
青空が野のなかにとける果てまで  
一筋の畔道を夢のように  
あてもなくさまよいるいたあの日  
だけどもいまは野をうばわれ  
春さえもうばわれてしまった

草いきれにつつまれて  
ほほえみまでもあおくそまる  
春の精にまだわされ日暮れまで  
足ひきずってさまよいるいたあの日



だけどもは野をうばわれ  
春さえもうばわれてしまった  
蝶よつばめよ飛びたつな  
けいとう咲く村に立ち寄って  
椿油つけた草かり娘  
あのこにもひとめ会いたいな  
だけどもは野をうばわれ  
春さえもうばわれてしまった

真田隊軍歌

詩 福田善之  
曲 林光

織田信長のうたいけり  
人間わずか五十年  
夢まぼろしのごとくなり  
かどうだかしつちやあいなないけど  
やりてえことをやりてえな  
てんでかっこよく死にてえな  
人間わずか五十年  
てんでかっこよく死にてえな

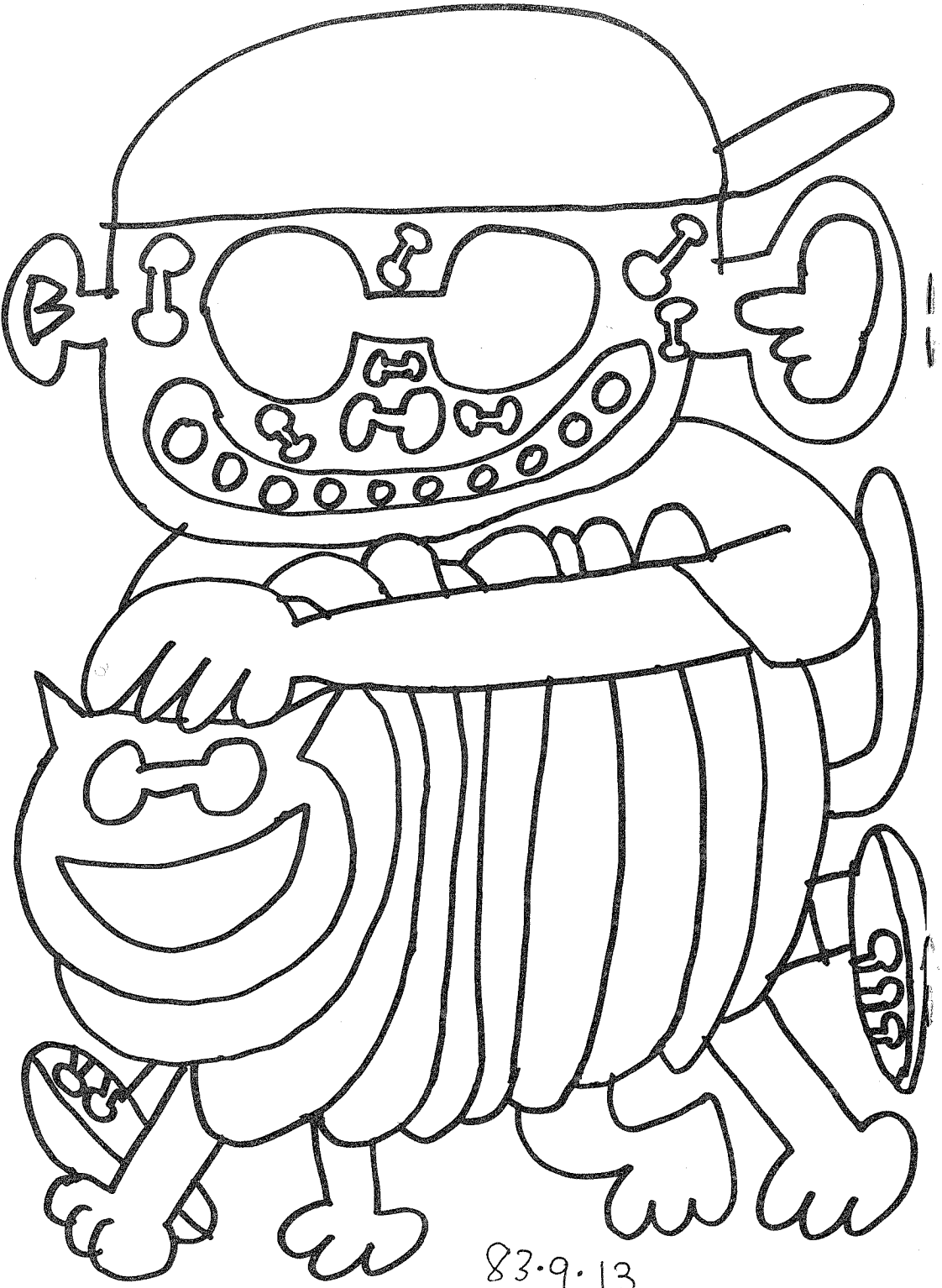
異国の聖のたまいぬ  
見よや野の百合 空の鳥  
あしたはあしたの風が吹く  
かどうだかしつちやあいなないけど  
生きてる気分になりてえな  
あしたはあしたの風が吹く  
てんでいきがって生きてえな

時は戦国 吹くは風  
流れる雲と列組んで  
一匹どっこい腕しだい  
かどうだかしつちやあいなないけど  
やりてえことをやりてえな  
てんで調子よく生きてえな  
一匹どっこい腕しだい  
てんで調子よく生きてえな

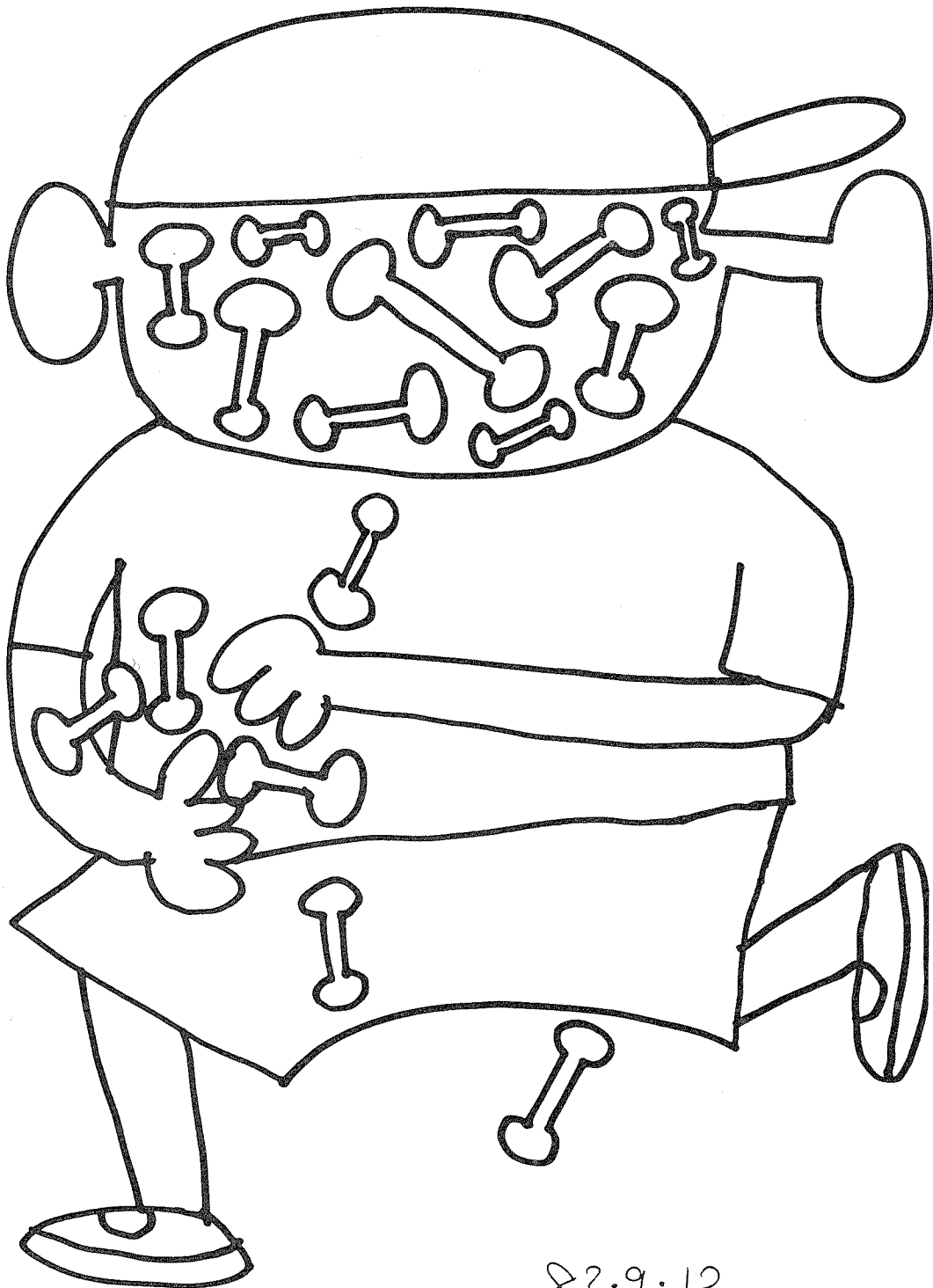
パレスチナの恋人

詩 マハムード・ダルウイシュ  
曲 高橋悠治

きみの瞳はとげ 胸をさす



83.9.13



83.9.13

心にのこるこの痛み  
嵐にむかい 夜と痛みにあたえて  
深くつきささり

傷口から星の光させば

現在は未来にかわる

それはなによりも大切なもの

きみの瞳はおぼえていない

あちらがわでいつしよにくらした日々さえ

きみのことばは歌だった

いまいちど歌いたいの

冬はばらのくちびるをとざしてしまった

### 今日はいえない

詩 スタニスワフ・マギエルスキ  
曲 ブロニスワフ・クルル

今日はこられないよ 夜霧に消える

うしろ姿を追わないでくれ

こよいの宿はどこになろうと

そこでぼくを待つ 森の仲間が

月はもう沈んだ 犬の遠げえ

君と別れても おもいは残る  
いつか帰れたらいつものように  
熱いくちづけてむかえておくれ

帰れないときは 仲間が春に

ぼくの灰をまき 骨は苔むす

たずねておくれよ 草原にいつか

麦の穂にかわつて生きてるぼくを

### 花のうた

詩 佐藤  
曲 林光

ちいさな草が芽をふいた

それからそつと花つけた

たぶんそいつはとおい朝

それがぼくらの歌だった

ぼくらはいつかそこにいた

ぼくらはいつかみつめてた

春さえくれば芽をふいた

雨さえふれば花つけた

いちばん寒い冬の夜  
いちばんひどい雪のとき  
声にはせずにうたってた  
わすれぬために花のうた

### 祖母のうた

詩 木村迪夫  
曲 高橋悠治

ふたりのこどもをくりにあげ  
のこりしかぞくはなきぐらし  
よそのわかしゆうみるにつけ  
うづのわかしゆういまごろは  
さいのかわらでこいしつみ

\*  
おもいだしてはしやすんをながめ  
なぜかしやすんはものいわぬ  
いわぬはづじやま  
やいじやもの

じゆうさんかしらて

ごにんのこどもおかれ  
なきなきくらすは  
なつのせみ \*

なんのいんがか  
いくさのたたり  
みせものうづになりました

\*  
にほんのひのまる  
なだてあかい  
かえらぬ

おらがむすこの ちであかい

\*  
おれのうたなの  
うただときくな  
なくなかれず  
うたでなく

\*  
おごさま  
おごさま  
なにくておがる  
うらのはたけの



83.9.13



83  
9  
13

クワくておがる  
おがたおこさま  
なさけあらば  
たおれたおらえのうづおば  
ごてんにしてよ

フジムラストア

詩・曲 チップ・ヘイトルリッドと  
かき氷

いきつけのフジムラストア  
とりこわされちやったね  
あとにシヨッピングセンターたて  
次はどことりこわす  
古いものはみんなダメ  
島中をとりこわす

できるのはミララニタウン  
パイナップル畑あと  
プレハブ住宅ならんだ  
灰色の町よ  
古いものはみんなダメ

島中をとりこわす

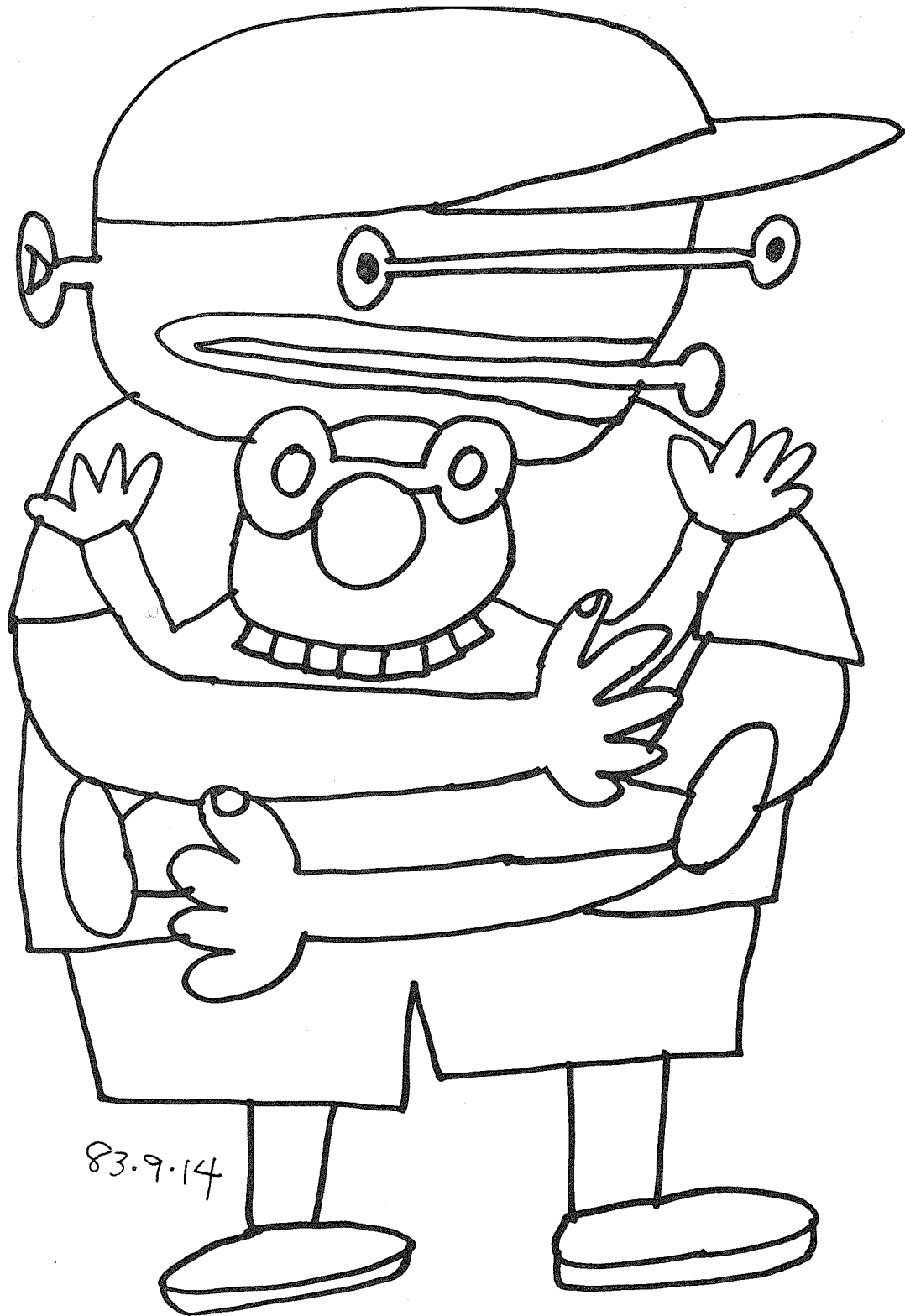
町中どこもかしこも  
ホテルとアパートだけ  
子どもはどうすりやいのさ  
あそび場もないんだよ  
古いものはみんなダメ  
島中をとりこわす

こわされたフジムラストア  
かき氷も買えないね  
あとにシヨッピングセンターたて  
次はどことりこわす

涙ぬれし豆満江

詩 李時雨  
曲 金用浩

豆満江青い水 さおさす船頭さん  
すぎた昔に君のせて  
去りしあの船 いまいずこやら  
いとしの君よ いとしの君よ



83.9.14

いつまた帰る

水も月夜にはすすり泣く  
君に去られてため息ばかり  
しのんでむせぶ せつない心  
いとしの君よ いとしの君よ  
いつまた帰る

君去りし河辺にもみじ咲き  
涙の川面に夜鳴き鳥  
去りし君にひとめ会いたや  
いとしの君よ いとしの君よ  
いつまた帰る

### めしは天

めしが天です  
天がひとりのものでないように  
めしはたがいにわかち食うもの  
めしが天です

曲 詩  
金芝河  
高橋悠治

天の星をいっしょに見る

めしはみんながともに食うもの

めしが天です

めしが口にはいるときは

天をからだにむかえるもの

めしが天です

ああ

めしはすべてたがいにわかち食うもの

### ボクハ ソンケイスル

曲 詩  
如月小春  
高橋悠治

ボクハ ソンケイスル

アメノヒモ カゼノヒモ

ヂット タチツツケル

ジドウハンバイキヲ ソンケイスル

キミハ ミタコトガ アルカ

キヨダイナ クウハクガ

スギナミクヲ ツツム ヨルニモ

リンリントシテ キツリツスル

ジドウハンバイキノ イシヲ

カケメゲル  
ニクロムセンノ ヨクボウチ  
ボクハ ソンナ  
ジドウハンバイキヲ ソンケイスル

都市

詩 如月小春  
曲 高橋悠治

都市  
ソレハ ユルギナキ全体  
絶体的ナ広ガリヲ持チ 把握ヲ許サズ 息ヅキ 疲レ  
蹴オトシ  
ソコデハ 全テが 置キ去リニサレテ 関ワリアウコトナ  
シニ ブヨブヨト 共存スルノミ  
個ハ 辺境ニアリ  
タダ 辺境ニアリ  
楽シミハ アマリニ稚ナクテ ザワメキノミガ タユタイ  
続ケル  
コンナ夜ニ 正シイナンテコトガ 何ニナルノサ

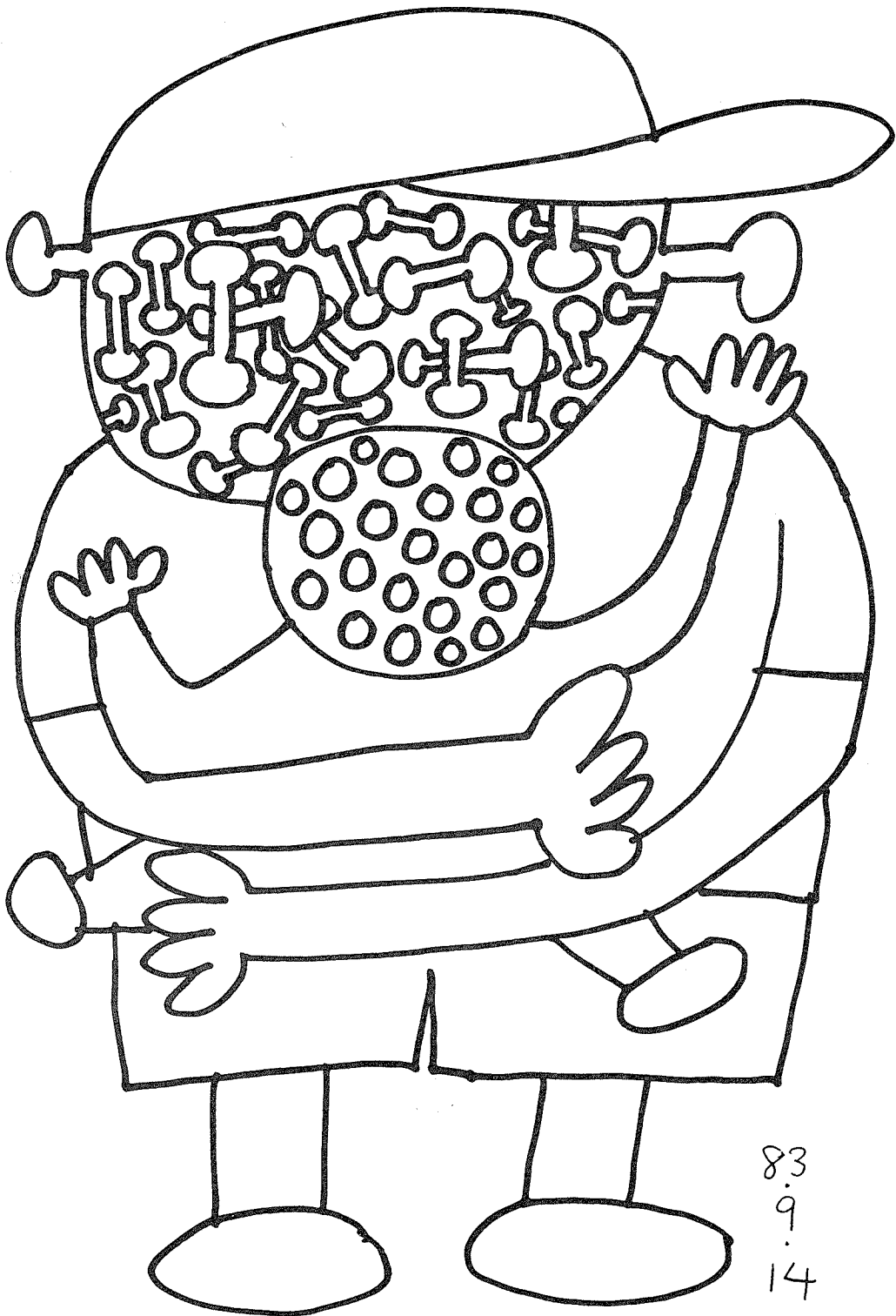
名前よ立って歩け

詩 中尾幸吉  
曲 高橋悠治

私の名前を  
小川の緑の草むらにひろげ  
青空のまうな安心  
とあそびたわむれたい  
にかよった水のながれ  
いつもの通り  
あくびしながらながれている  
この空は  
もうだれのものでもなくなった  
私のすがたを残したまま  
名前が後へあとへ流れてゆく  
名前は  
さようならと言っている  
あそびが冷汗かいている



83  
9  
14



83  
9  
14

名前は

いっこうに生れず  
しびれをさらした喪服は  
めいわくそうに笑おうか

ふりあげてみる山

でっかいその身は空瓶のようにつっ立ち  
風がふきぬけているのに身を  
まかしているよ

ふあんなふあんな  
まいにちまいにち

パレスチナの子どもの神さまへのがみ 曲 高橋悠治

かみさま

あなたのひこうきがまいにちやってきます  
きのうもぼくたちのテントに  
ぼくだんをおとしていきました  
ぼくははしっていわかげにかくれました  
わらってわらってわらいました

かみさま

いつもたべものをさがすごみばこを  
どこへもつてつちやっただの  
はやくかえしてね  
おねがい

かみさま

ぼくたちのもちものはぜんぶ  
ておしぐるまにおさまります  
おとうさんがおしてゆきます  
たすけてよかみさま

ねえかみさま

かあちゃんはいつかむかしのうちへかえるといひます  
ぼくはじぶんのへやにねて  
ともだちとあそべるんだ  
ほんとにそんなひがくるかしら

かみさま

おねがい  
せんそうやめさせて

かみさま  
ぼくたちはまだきぼうをもっています

### 水牛楽団のうた

詩 ウエンディ・プサート  
曲 高橋悠治

おそれからことばはうまれ  
涙から歌はそだつ  
自由とは何かいえないけれど  
それとわかる 歌をきけば

うたいつづけて道をゆく  
足はつかれ 雨がふる  
だが歌はたがやしゆく  
水牛のように

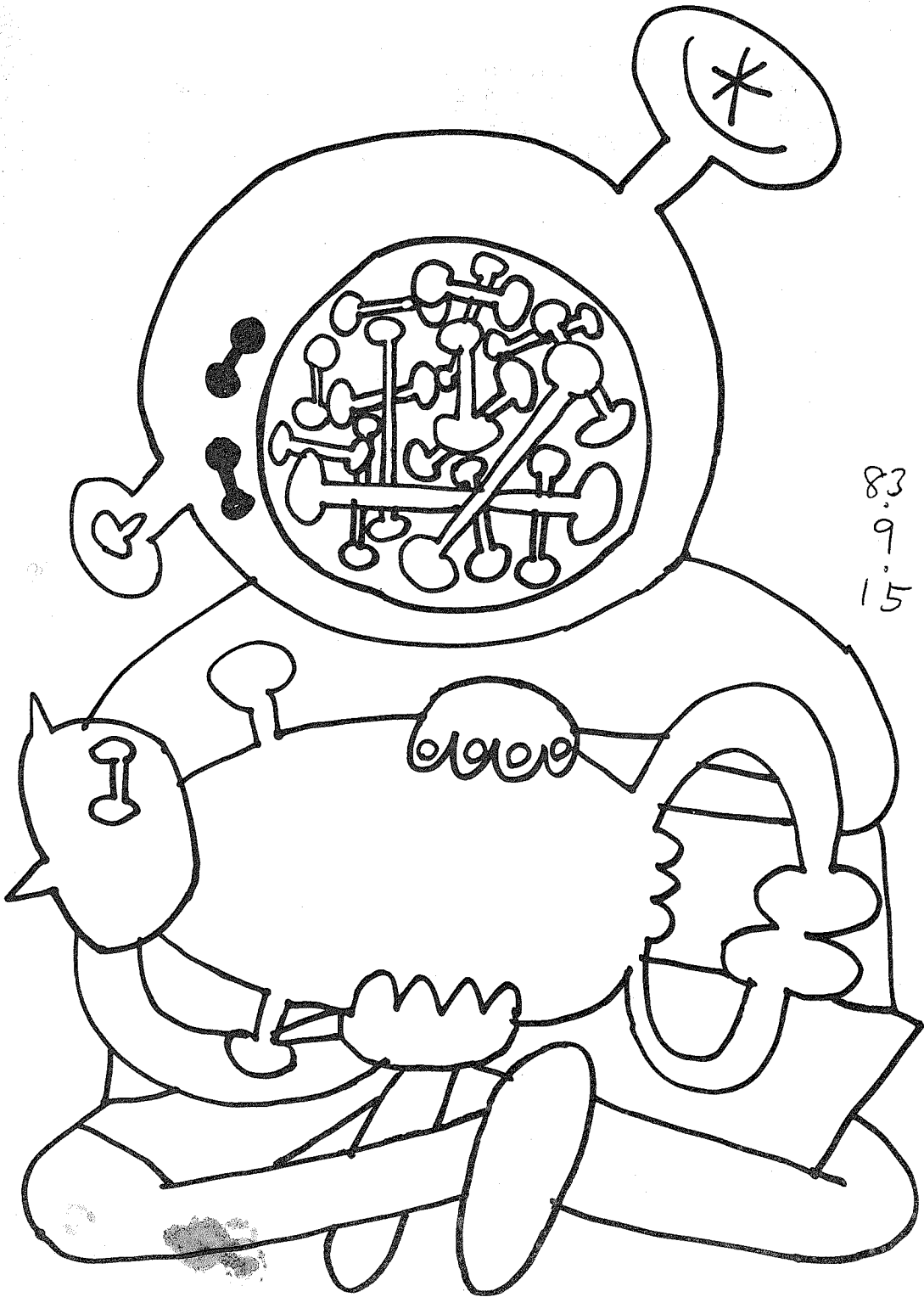
自由うばわれた男たち  
悲しみにしずむ女たち  
愛のことばが さしだす手が  
届かなくとも歌は残る

うたいつづけて道をゆく  
足はつかれ 雨がふる  
だが歌はたがやしゆく  
水牛のように

歌は記憶 歌は問いかけ  
かぎりなくそれはひろがる  
記憶の意味は君があたえ  
問いのこたえは君が出す

うたいつづけて道をゆく  
足はつかれ 雨がふる  
だが歌はたがやしゆく  
水牛のように

83  
9  
15





編集後記

一年まえの大みそかは、高田馬場の奥ふか  
いところにある陶文堂の一室でこの編集後記  
をかいていた。今年はそれより五日ほど早い  
いま荻窪の白頭山の二階で「水牛」忘年会が  
はじまったところだ。以下、出席者を列挙し  
て本年の活動のしめくりとする。

柳生まち子さんはあの盪惑的なニジンスキ  
ー人形の作者である。渡辺広孝さんは「水牛  
通信」の運搬係。水牛楽団はかれのつくった  
竹の笛をよく借りる。須郷純子さん、ニジン  
スキーの「ポーズ」のスライドを映したひと。  
鳥養潮さんとは松本で共演した。なんとこの  
かな、音のパフォーマンスをやるひとです。  
戸田れい子さんのとった夕張の写真は「水  
牛通信」で好評だった。竹前文美子さんはス  
ペース桐里のあるじ。国吉保さんは学校を中  
退したというのに、沖繩にもどらず水牛にい  
るのだ。

田川律さんは紹介を略す。平野甲賀さんも  
同様。岡真樹さんはことしの編集委員会のニ  
ューフェイス。齊藤陶文堂さん、この後記  
ができあがるのを待ちながら、もう酔っぱら

っている。莊司和子さんも来た。タイ語。こと  
としてはカラワンの来日で大変だった。

鎌田慧さん、ことしははじめて水牛楽団と  
旅をして音楽にめぐめた。おや、ポーランド  
「禁じられた歌」コンサート以来の工藤幸雄  
さんが、袖井林二郎さんをつれてあらわれた。  
すでにかなり酔いがまわっているかのごとく  
である。

如月小春さん登場。劇作家。ことし、いっ  
しよにパフォーマンスをやった。本号にの  
っている「ボクハソングケイブル」などの作者で  
ある。三宅榛名さんは作曲家。高橋悠治との  
ピアノ・デュオ『いちめん菜の花』というレ  
コードを出したばかり。石井かほるさん。水  
牛の母。小室等さん。ほとんど大人、今年ハ  
カラワンのコンサート・ツアーをばっちり  
つきあってくれた。志沢小夜子さん、なぜか  
小室等さんとともに現れた。奇蹟的なカラワ  
ン全国コンサートを成功させた仲間である。

\* 予約購読の申し込みと送金は郵便振替を利  
用して下さい。

口座名、水牛編集委員会  
口座番号、東京四一九一七九二  
購読料、一年分三〇〇〇円(送料共)  
半年分一八〇〇円です。

\* 住所、氏名、電話番号、何号からというこ  
とを明記してください。

\* 本誌は次の書店にあります。  
模索舎(新宿) ☎三五二一三五七七  
ブックイン(阿佐谷) ☎三三三〇一七八九七  
信愛書店(西荻窪) ☎三三三三一九九六一  
アール・ヴィヴァン(西武池袋12F)  
☎九八一〇一〇一一一内線二九五六  
名古屋ウニタ書店 ☎七三二一一三八〇  
ワンラブブックス(下北沢)  
☎四一一一八三〇二

水牛通信 第六巻第一号

一九八四年一月十日  
定価 二〇〇円

発行人 堀田正彦  
発行所 水牛編集委員会

〒154 東京都世田谷区新町2-15-3 八巻方

電話〇三(四二五)九六五八  
振替口座東京四一九一七九二  
印刷所 (株)トライプリントショップ